

施設の名 称	梅の郷月ヶ瀬温泉、奈良市特産品等直売施設（月ヶ瀬温泉ふれあい市場）、奈良市月ヶ瀬梅の資料館、ロマントピア月ヶ瀬、奈良市月ヶ瀬農畜産物処理加工施設、奈良市農林水産物直売・食材供給施設（湖畔の里つきがせ）
申請団体の名 称	月ヶ瀬地域振興協議会

適否審査

過否審査			各委員の審査									
選定の基準		審査項目		A	B	C	D	E	適の数	否の数	判定	意見
1	市民による公の施設の平等利用を確保できるものであること	①	市民による平等利用に対する考え方及び方策	適	適	適	適	適	5	0	適	・考え方が定着している。 ・住民の施設利用は、人数のことだけではなく、外部の人達との交流に対する姿がより多くの外部の人達を呼び込むことに気づいて欲しい。 ・月ヶ瀬村時代からの思い入れのある施設を大切に引き継ぐ意思が感じられた。
		②	情報公開に対する考え方及び方策	適	適	適	適	適	5	0	適	
		③	法令遵守に対する考え方及び方策	適	適	適	適	適	5	0	適	
2	事業計画書の内容が公の施設の経費の縮減が図られるものであること	①	経理の適正性	適	適	適	適	適	5	0	適	・一括で管理されるメリット
3	事業計画書に沿った公の施設の管理を安定して行う能力を有していること	①	施設の維持管理に対する考え方及び方策	適	適	適	適	適	5	0	適	・経験豊。地元の方。
		②	施設の安全対策、非常時の対応に対する考え方及び方策	適	適	適	適	適	5	0	適	

点数審査

選定の基準		審査項目		各委員の採点							点数			意見		
				A	B	C	D	E	平均	計	満点		比率	優れている点	劣っている点	
1	事業計画書の内容が公の施設の効用を最大限に発揮させるものであること	①	施設の現状分析	8	6	6	6	6	6.4	32	110	50	175	35%	・現状や状況を適切に捉えている。 ・努力の様子はわかるが、もっと外部の状況を見て月ヶ瀬に取り入れられる事がないか。 ・現在運営していることもあり、課題への理解はある。YouTube等で取り上げられている効果は感じた	・一歩踏み込んだ計画には、及んでいない。 ・実施計画等は、具体性に乏しい。 特に外への発信などについて、自主的な取り組みは十分ではない。
		②	事業実施計画	6	6	6	8	6	6.4	32		50				
		③	自主事業実施計画	3	4	3	3	3	3.2	16		25				
		④	利用の促進、サービスの向上の方策	8	6	6	6	4	6	30		50				
2	事業計画書の内容が公の施設の経費の縮減が図られるものであること	①	指定管理料の提案額	4	4	4	4	4	4	20	20	50	50	10%		
3	事業計画書に沿った公の施設の管理を安定して行う能力を有していること	①	職員の配置、勤務体制及び研修計画	8	6	6	6	6	6.4	32	83	50	125	25%	・特に不安は見られない。	・＋αの発案はあまりなかった。 ・詳細な財務状況に関しては、提出された資料だけでは判断できない。
		②	類似事業の実績、ノウハウ	6	6	8	8	6	6.8	34		50				
		③	財務状況の健全性	3	4	3	3	4	3.4	17		25				
4	その他効果的に公の施設の設置の目的を達成することのできる団体であること	①	施設の管理運営に対する熱意・意欲	10	8	6	8	6	7.6	38	111	50	150	30%	・熱意を感じる受け答えであった。考え方も◎	
		②	地域・施設間における連携に対する考え方	8	6	8	6	6	6.8	34		50				
		③	地域振興に対する考え方	5	4	4	3	4	4	20		25				
		④	行政との連携	5	4	3	3	4	3.8	19		25				
合計点				74	64	63	64	59	64.8	324	324	500	500	100%		

総評

・経験と実績にもとづく内容であり、安定した運営が期待される。＋αの発想と施策の推進を期待する。
・担当者の皆さんが、それぞれの立場でがんばっておられるのは理解できるが、自分達の状況をもっと別の角度から見直す事も必要なのではないだろうか。
・これまでに引き続き運営するという意味では安定感はあると考える。ただ、市場環境が変化する中、特に月ヶ瀬という地域は少子高齢化が急速に進む地域でもあることから、10年から20年先を見据えた運営をしていただきたいと考える。特に若手を増やしていく取り組みには期待したい。
・これまでの4施設に加え、新たに2施設を管理運営することになります。地域外からの来訪が多いので、これまで以上に丁寧な対応をされて、リピーターを増やしていただきたいと考えます。また、6つの施設を運営されることで、より連携した取り組みの検討を。SNSでの魅力ある情報発信を期待します。
・全国的な課題である少子高齢化に、歯止めをかけるための地域外からの交流人口の増加に努めている。今後は、月ヶ瀬の情報発信により力を注いでくれることに期待するとともに、梅の時期以外にも月ヶ瀬を訪れていただける施策も検討いただきたい。